

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科			2	7	9	7	
	電気電子創造工学科				8	10	7	
	物質工学科				6	8	7	
	建築学科				6	8	7	
	複合工学専攻(機械工学コース)			6	6	12	7	
	複合工学専攻(電気電子創造工学コース)				8	14	7	
	複合工学専攻(物質工学コース)				2	8	7	
	複合工学専攻(建築学コース)				2	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=12

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスは、前年度に教務委員会と全員出席の教職員会議を通して全教員へ作成依頼を行っている。また、作成方法については、教務委員会で説明を行い、理解を得て実施している。</p> <p>作成されたシラバスは授業実施年度前に公表しており、公表内容については各学科の教務委員が確認することとしている。</p> <p>公表は、国立高専機構のWebシラバス上に公表している。形式は、国立高専機構のフォーマットに準拠した方法による。このシラバスの中に、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=12</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>個々の授業に対応できるように、試験やレポート、卒業論文等について、評価方法はルーブリック評価等を取り入れながら、科目を適正に評価する手法を用いて単位を与えている。</p> <p>評価基準については、シラバスに記述してある評価基準を基にしている。また、履修を認定している。学年末成績判定には、全教員参加の成績判定会議を実施している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○客観的な指標の設定</p> <p>シラバスに基づく成績評価方法に従い、履修科目の成績を100点法により評価し、全科目合計点の平均を算出する。</p> <p>(なお、卒業研究その他合否により評価する科目については、平均の算出から除外する。)</p> <p>○成績の分布状況の把握</p> <p>上記の平均点を用いて、各学科・専攻ごとの成績分布を把握しており、平均点の高いものから順位付けをしている。</p>	

客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.oyama-ct.ac.jp/gakusei/ 成績評価等について/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>準学士課程及び専攻科共に、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し、それに従って適切に卒業認定を行っている。</p> <p>学年末成績判定は、全教員参加により、成績判定会議を実施しこの会議をもって成績を確定するようになっており、適切に実施している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>【本科】 https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/</p> <p>【専攻科】 https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/</p> <p>学生便覧（在校生に配付）、学校要覧（https://www.oyama-ct.ac.jp/about/publications/）</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	小山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.oyama-ct.ac.jp/information/schoolevaluation_jabee/selfinspection/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.oyama-ct.ac.jp/information/schoolevaluation_jabee/external_evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/) (概要) 本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/) (概要) 【機械工学科】機械工学科は、理工系基礎学力と機械工学系の学力の修得に加え、人文社会系の素養も身に付け、自ら学び考え、課題を解決する創造性・探究心豊かな人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 修得する能力 <ul style="list-style-type: none">● 機械工学分野をコアとして、幅広い知識と技術を活用した課題解決能力● 課題の本質を理解、解析する論理的思考能力● 他者と協働し積極的に業務を遂行できる能力● 倫理観・責任感をもって業務に関わる姿勢
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/) (概要) 【機械工学科】 ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。 1) 機械工学の基礎科目：機械の設計や開発に欠かせない材料力学・材料加工分野、機械力学・制御工学分野、環境エネルギー工学分野及び電気・電子・情報分野などを基盤とした基礎専門科目 2) 技術習得に関する科目：ものづくりに必要な技術や手法を習得できる工作実習、機械設計製図（コンピュータ支援設計及び製図含む）、物理的な現象を理解したり、測定方法を習得するための実験（機械工学、メカトロニクス）などの実技科目 3) 課題解決能力育成科目：機械工学概論、卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目 これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては実技及びレポート等を含む総合的な評価により認定する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/)</p>
<p>(概要) 【機械工学科】 機械工学科では、力、エネルギー、熱、流れなどに関する基礎と、加工技術や製図などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、理科、技術が好きで、得意な人 2. 自ら考え、手を使って、行動できる人 3. 環境や資源を配慮した機械作りに取り組みたい人

<p>学部等名 電気電子創造工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/)</p> <p>(概要) 本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/)</p> <p>(概要) 【電気電子創造工学科】 電気電子創造工学科は、理工系基礎学力と電気電子情報系の学力の修得に加え、人文社会系の素養も身に付け、自ら学び考え、課題を解決する創造性・探究心豊かな人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p>修得する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電気・電子・情報工学分野をコアとして、幅広い知識と技術を活用した課題解決能力 ● 課題の本質を理解、解析する論理的思考能力 ● 他者と協働し積極的に業務を遂行できる能力 ● 倫理観・責任感をもって業務に関わる姿勢

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/)</p>
<p>(概要) 【電気電子創造工学科】 ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 電気・電子・情報工学の基礎科目：電気回路、電磁気学、電子工学、電子回路、コンピュータ、プログラミングを基盤とした基礎専門科目 2) 技術習得に関する科目：実践的な工学実験、電気電子演習、情報演習、電子回路設計などの科目 3) 課題解決能力育成科目：電気電子創造実験、卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

<p>これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては実技及びレポート等を含む総合的な評価により認定する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/) (概要) 【電気電子創造工学科】 電気電子創造工学科では、電気エネルギー、電気電子回路、情報通信、電子材料、コンピュータやプログラムなどの基礎を学び、それらを活かした新エネルギー技術、最新ロボット技術やシステム作りとその応用を勉強し、社会のために努力しようとする人の入学を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、理科、技術が好きで、好奇心旺盛な人 2. 自分で考え、アイデアにあふれ、モノを作ることが好きな人 3. 最先端技術分野や先進的システムに興味があり、将来モノづくりで社会に貢献しようと思う人

<p>学部等名 物質工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/) (概要) 本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/) (概要) 【物質工学科】 物質工学科は、化学を中心として材料化学や生物化学等の分野についての基礎学力の修得に次いで、化学物質を分子・原子レベルで精密に制御し、かつ組み立てる技術を系統的に学び、新素材・化学製品・バイオ物質に関わるあらゆる分野で将来活躍できるように、探究心を持って課題解決できる創造的な人材を育成するため、人文社会系の素養に加えて以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。</p> <p>修得する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 化学を基盤として、材料化学や生物化学等の幅広く系統的な知識と技術を活用した課題解決能力 ● 課題の本質を論理的に理解し、解析する能力 ● 他者と協働し、業務を積極的に遂行できる能力 ● 倫理観・責任感をもって行動する能力

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/)</p> <p>(概要)</p> <p>【物質工学科】 ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。</p> <p>1) 化学の基礎科目：有機化学、無機化学、物理化学、生物化学、化学工学を基盤とした基礎専門科目</p> <p>2) 技術習得に関する科目：分析化学実験、物質工学実験などの実技科目</p> <p>3) 課題解決能力育成科目：材料化学実験、生物工学実験及び卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目</p> <p>これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては実技及びレポート等を含む総合的な評価により認定する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/)</p> <p>(概要)</p> <p>【物質工学科】物質工学科では、化学および生物の基礎と、それを応用することを勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 化学や生物に興味を持つ人 2. 自然現象に興味を持ち、好奇心旺盛で、実験が好きな人 3. 人間生活と自然環境との関わりについて関心のある人

<p>学部等名 建築学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/)</p> <p>(概要) 本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma/)</p> <p>(概要)</p> <p>【建築学科】建築学科は、理工系基礎学力と建築設計を行うための技術力の修得に加え、人文社会系の素養も身に付け、自ら学び考え、課題を解決する創造性・探究心豊かな人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p>修得する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建築学分野に関わる科目をコアとして、幅広い知識と技術を活用した課題解決能力 ● 課題の本質を理解、解析する論理的思考能力 ● 他者と協働し積極的に業務を遂行できる能力

<ul style="list-style-type: none"> • 倫理観・責任感をもって業務に関わる姿勢
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum/)</p> <p>(概要) 【建築学科】 ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 建築学の基礎科目：いわゆる建築計画（建築計画、環境工学、建築史など）及びいわゆる建築構造（構造力学、建築材料、木構造など）を基盤とした基礎専門科目 2) 技術習得に関する科目：実践的な創造演習（構造・材料実験、測量、環境工学実験）などの実技科目及び建築法規、構造設計などの実務的な色彩の強い科目 3) 課題解決能力育成科目：建築設計、卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目 <p>これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては実技及びレポート等を含む総合的な評価により認定する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission/)</p> <p>(概要) 【建築学科】 建築学科では、すまい、都市などを計画・設計するための知識と、建物のしくみ、造り方などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学や理科に興味があり、技術や美術が好きな人 2. 人々の生活環境を学び、快適な建物を設計してみたい人 3. 建物のしくみに関心を持ち、安全な建物づくりに取り組みたい人
<p>学部等名 複合工学専攻（機械工学コース）</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/)</p> <p>(概要) 本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/)</p>

(概要)

本校専攻科（複合工学専攻）では、機械系、電気・電子・情報系、化学を基礎とした分野及び建築学の諸分野の基礎学力の養成と各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会に柔軟に対応できる人材の養成を目指しています。

具体的には、

- 1) 工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成。
 - 2) 専門分野を持ちながらも他分野も見渡せる複眼的なものの見方や考え方ができるフレキシビリティのある技術者の育成です。
- このような人材育成目標に到達するために、以下のような能力を身につけた学生に修了を認定します。

1. 一般科目

言語や倫理観の育成に関する科目について一般科目から 6 単位を修得すること。

2. 専門科目

- 2.1 数学・物理系の知識を育成するために、専門基礎科目から 4 単位以上を修得すること。
- 2.2 複眼的な素養の育成をするために、コース共通科目から 26 単位以上を修得すること。
- 2.3 専門分野の知識・能力の育成として、各コース科目から 17 単位以上を修得すること。

総合的に、専攻科に 2 年以上在学し、所定の授業科目のうち 62 単位以上を修得した学生に修了を認定します。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/>)

(概要)

本校専攻科（複合工学専攻）では、本準学士課程にて修得した学科の専門性をより高度化したうえで、さらに共通として修得すべき複合教育を実施する教育課程を編成しています。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

1. 高専の準学士課程教育で修得した学力を基礎とし、さらに高度化・複合化した教育を行うために、コースごとの専門性をより高度化させた科目とともに、英語関連科目、経営工学、技術者倫理、環境技術、産業財産権などの共通科目を編成し、複眼的な配慮ができる技術者としての基礎を形成します。
2. デザイン教育科目としてプロジェクトデザインやシステムデザインを配置し、さらに実務研修（インターンシップ）を実施することで、広い視野とコミュニケーション能力を醸成します。
3. コースごとに専門科目を編成し、高度な技術に関する理解を深めます。
4. 実験・実習と特別研究を系統的に編成し、開発能力に富む創造的技術者を育成します。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/)</p>
<p>(概要) 本校専攻科（複合工学専攻）では、 教育方針“技術者である前に人間であれ”を堅持し、地域社会や産業界とともに、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かで実践的能力を備えた高度な技術者を育成することをめざします。 この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人 2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人 3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人 <p>○機械工学コース</p> <p>機械工学に関連する分野の基礎学力をもち、基礎を応用して、より高度な技術を自ら身に付けようとする意欲のある人、専門分野の知識や得られた成果を簡潔に説明・発表できる人。</p>

<p>学部等名 複合工学専攻（電気電子創造工学コース）</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/)</p> <p>(概要) 本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/)</p>
<p>(概要) 本校専攻科（複合工学専攻）では、機械系、電気・電子・情報系、化学を基礎とした分野及び建築学の諸分野の基礎学力の養成と各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会に柔軟に対応できる人材の養成を目指しています。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成。 2) 専門分野を持ちながらも他分野も見渡せる複眼的なものの見方や考え方ができるフレキシビリティのある技術者の育成です。 <p>このような人材育成目標に到達するために、以下のような能力を身につけた学生に修了を認定します。</p> <p>1. 一般科目</p> <p>言語や倫理観の育成に関する科目について一般科目から6単位を修得すること。</p>

2. 専門科目

- 2.1 数学・物理系の知識を育成するために、専門基礎科目から4単位以上を修得すること。
 - 2.2 複眼的な素養の育成をするために、コース共通科目から26単位以上を修得すること。
 - 2.3 専門分野の知識・能力の育成として、各コース科目から17単位以上を修得すること。
- 総合的に、専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目のうち62単位以上を修得した学生に修了を認定します。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/>)

(概要)

本校専攻科（複合工学専攻）では、本準学士課程にて修得した学科の専門性をより高度化したうえで、さらに共通として修得すべき複合教育を実施する教育課程を編成しています。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

1. 高専の準学士課程教育で修得した学力を基礎とし、さらに高度化・複合化した教育を行うために、コースごとの専門性をより高度化させた科目とともに、英語関連科目、経営工学、技術者倫理、環境技術、産業財産権などの共通科目を編成し、複眼的な配慮ができる技術者としての基礎を形成します。
2. デザイン教育科目としてプロジェクトデザインやシステムデザインを配置し、さらに実務研修（インターンシップ）を実施することで、広い視野とコミュニケーション能力を醸成します。
3. コースごとに専門科目を編成し、高度な技術に関する理解を深めます。
4. 実験・実習と特別研究を系統的に編成し、開発能力に富む創造的技術者を育成します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/>)

(概要)

本校専攻科（複合工学専攻）では、教育方針“技術者である前に人間であれ”を堅持し、地域社会や産業界とともに、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かで実践的能力を備えた高度な技術者を育成することをめざします。

この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。

1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人

3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人

○電気電子創造工学コース

数学・英語の基礎学力と電気電子の専門基礎学力を有し、電気・電子・情報について自ら学び、その分野を積極的に研究できる人。

学部等名 複合工学専攻（物質工学コース）

教育研究上の目的

（公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/）

（概要）本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/>）

（概要）

本校専攻科（複合工学専攻）では、機械系、電気・電子・情報系、化学を基礎とした分野及び建築学の諸分野の基礎学力の養成と各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会に柔軟に対応できる人材の養成を目指しています。

具体的には、

- 1) 工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成。
 - 2) 専門分野を持ちながらも他分野も見渡せる複眼的なものの見方や考え方ができるフレキシビリティのある技術者の育成です。
- このような人材育成目標に到達するために、以下のような能力を身につけた学生に修了を認定します。

1. 一般科目

言語や倫理観の育成に関する科目について一般科目から 6 単位を修得すること。

2. 専門科目

- 2.1 数学・物理系の知識を育成するために、専門基礎科目から 4 単位以上を修得すること。
- 2.2 複眼的な素養の育成をするために、コース共通科目から 26 単位以上を修得すること。
- 2.3 専門分野の知識・能力の育成として、各コース科目から 17 単位以上を修得すること。

総合的に、専攻科に 2 年以上在学し、所定の授業科目のうち 62 単位以上を修得した学生に修了を認定します。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/>)

(概要)

本校専攻科（複合工学専攻）では、本準学士課程にて修得した学科の専門性をより高度化したうえで、さらに共通として修得すべき複合教育を実施する教育課程を編成しています。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

1. 高専の準学士課程教育で修得した学力を基礎とし、さらに高度化・複合化した教育を行うために、コースごとの専門性をより高度化させた科目とともに、英語関連科目、経営工学、技術者倫理、環境技術、産業財産権などの共通科目を編成し、複眼的な配慮ができる技術者としての基礎を形成します。
2. デザイン教育科目としてプロジェクトデザインやシステムデザインを配置し、さらに実務研修（インターンシップ）を実施することで、広い視野とコミュニケーション能力を醸成します。
3. コースごとに専門科目を編成し、高度な技術に関する理解を深めます。
4. 実験・実習と特別研究を系統的に編成し、開発能力に富む創造的技術者を育成します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/>)

(概要)

本校専攻科（複合工学専攻）では、教育方針“技術者である前に人間であれ”を堅持し、地域社会や産業界とともに、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かで実践的能力を備えた高度な技術者を育成することをめざします。

この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。

1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人

○物質工学コース

材料工学や生物工学等の諸分野に関する化学の基礎学力を持ち、より高度な専門知識と問題解決能力の修得と自学自習の意欲があり、協調性を持ってチャレンジできる人。

<p>学部等名 複合工学専攻（建築学コース）</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/basic_principle/）</p> <p>（概要）本校では教育の基本理念として「技術者である前に人間であれ」を掲げています。これは本校の初代校長が学生に対し「技術者になるためには人間としての豊かさ、魅力を備えなければならない」ということを説いた言葉です。人間性を具体化したものが「健やかな心身」と「豊かな人間性」であり、「科学技術の研鑽と創造」と合わせて本校の教育の基本的な考え方を表しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/diploma2/）</p> <p>（概要）</p> <p>本校専攻科（複合工学専攻）では、機械系、電気・電子・情報系、化学を基礎とした分野及び建築学の諸分野の基礎学力の養成と各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会に柔軟に対応できる人材の養成を目指しています。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成。 2) 専門分野を持ちながらも他分野も見渡せる複眼的なものの見方や考え方ができるフレキシビリティのある技術者の育成です。 <p>このような人材育成目標に到達するために、以下のような能力を身につけた学生に修了を認定します。</p> <p>1. 一般科目</p> <p>言語や倫理観の育成に関する科目について一般科目から 6 単位を修得すること。</p> <p>2. 専門科目</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.1 数学・物理系の知識を育成するために、専門基礎科目から 4 単位以上を修得すること。 2.2 複眼的な素養の育成をするために、コース共通科目から 26 単位以上を修得すること。 2.3 専門分野の知識・能力の育成として、各コース科目から 17 単位以上を修得すること。 <p>総合的に、専攻科に 2 年以上在学し、所定の授業科目のうち 62 単位以上を修得した学生に修了を認定します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/curriculum2/）</p> <p>（概要）</p> <p>本校専攻科（複合工学専攻）では、本準学士課程にて修得した学科の専門性をより高度化したうえで、さらに共通として修得すべき複合教育を実施する教育課程を編成しています。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。</p>

1. 高専の準学士課程教育で修得した学力を基礎とし、さらに高度化・複合化した教育を行うために、コースごとの専門性をより高度化させた科目とともに、英語関連科目、経営工学、技術者倫理、環境技術、産業財産権などの共通科目を編成し、複眼的な配慮ができる技術者としての基礎を形成します。
2. デザイン教育科目としてプロジェクトデザインやシステムデザインを配置し、さらに実務研修（インターンシップ）を実施することで、広い視野とコミュニケーション能力を醸成します。
3. コースごとに専門科目を編成し、高度な技術に関する理解を深めます。
4. 実験・実習と特別研究を系統的に編成し、開発能力に富む創造的技術者を育成します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/educational/3policy/admission2/>）

（概要）

本校専攻科（複合工学専攻）では、教育方針“技術者である前に人間であれ”を堅持し、地域社会や産業界とともに、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かで実践的能力を備えた高度な技術者を育成することをめざします。

この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。

1. 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
2. モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
3. 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人

○建築学コース

建築学における、生活に密接に関わる安全・快適な建築物及び居住環境や都市空間について関心があり、これらの分野の基礎的な学力を有し、自ら学ぶ意欲のある人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.oyama-ct.ac.jp/about/outline/soshiki/shoshikizu/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4人	－					4人
機械工学科	－	5人	3人	3人	1人	0人	12人
電気電子創造工学科	－	5人	10人	2人	0人	0人	17人
物質工学科	－	4人	6人	1人	0人	0人	11人
建築学科	－	4人	2人	1人	1人	0人	8人
一般科	－	4人	9人	6人	1人	0人	20人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		32人					32人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=03&affiliationId=6544000000						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本校の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、H31年度に組織的にSD・FDを推進すべくSD・FD推進チームを学内に設置した。そのチームを中心に喫緊で必要とされる知識・技能の習得並びに中長期的な観点での教職員の能力・資質の向上を目的とした研修会（対象：全教職員、開催頻度：月1回程度）を企画・実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	40人	100%	200人	207人	103.5%	若干名	1人
電気電子創造工学科	80人	81人	101.3%	400人	398人	99.5%	若干名	1人
物質工学科	40人	41人	102.5%	200人	203人	101.5%	若干名	0人
建築学科	40人	40人	100%	200人	203人	101.5%	若干名	0人
合計	200人	202人	101%	1,000人	1011人	101.1%	若干名	2人
複合工学専攻	20人	28人	140%	40人	50人	125%	0人	0人
合計	20人	28人	140%	40人	50人	125%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	38人 (100%)	11人 (29.0%)	27人 (71.0%)	0人 (0%)
物質工学科	37人 (100%)	21人 (56.8%)	16人 (43.2%)	0人 (0%)
建築学科	35人 (100%)	20人 (57.1%)	15人 (42.9%)	0人 (0%)
電気電子創造 工学科	77人 (100%)	34人 (44.2%)	39人 (50.6%)	4人 (5.2%)
合計	187人 (100%)	86人 (46.0%)	97人 (51.9%)	4人 (2.1%)
複合工学専攻	26人 (100%)	9人 (34.6%)	15人 (57.7%)	2人 (7.7%)
合計	26人 (100%)	9人 (34.6%)	15人 (57.7%)	2人 (7.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
機械工学科	41人 (100%)	33人 (80.5%)	6人 (14.6%)	2人 (4.9%)	0人 (0%)
電気電子創造 工学科	82人 (100%)	69人 (84.2%)	6人 (7.3%)	7人 (8.5%)	0人 (0%)
物質工学科	40人 (100%)	33人 (82.5%)	1人 (2.5%)	6人 (15%)	0人 (0%)
建築学科	40人 (100%)	32人 (80%)	2人 (5%)	6人 (15%)	0人 (0%)
複合工学専攻	25人 (100%)	25人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
合計	228人 (100%)	192人 (84.2%)	15人 (6.6%)	21人 (9.2%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスは、前年度に教務委員会と全員出席の教職員会議を通して全教員へ作成依頼を行っている。また、作成方法については、教務委員会で説明を行い、理解を得て実施している。</p> <p>作成されたシラバスは授業実施年度前に公表しており、公表内容については各学科の教務委員が確認することとしている。</p> <p>公表は、国立高専機構のWebシラバス上に公表している。形式は、国立高専機構のフォーマットに準拠した方法による。このシラバスの中に、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>個々の授業に対応できるように、試験やレポート、卒業論文等について、評価方法はルーブリック評価等を取り入れながら、科目を適正に評価する手法を用いて単位を与えている。</p> <p>評価基準については、シラバスに記述してある評価基準を基にしている。また、履修を認定している。学年末成績判定には、全教員参加の成績判定会議を実施している。</p>																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要となる 単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"></td> <td>機械工学科</td> <td>167 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>電気電子創造 工学科</td> <td>167 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>物質工学科</td> <td>167 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>建築学科</td> <td>167 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"></td> <td>機械工学コース</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>電気電子創造工学 コース</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>物質工学コース</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>建築学コース</td> <td>62 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td colspan="2">GPAの活用状況 (任意記載事項)</td> <td colspan="3">公表方法：</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)</td> <td colspan="3">公表方法：</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)		機械工学科	167 単位	有・ 無	単位	電気電子創造 工学科	167 単位	有・ 無	単位	物質工学科	167 単位	有・ 無	単位	建築学科	167 単位	有・ 無	単位		機械工学コース	62 単位	有 ・無	単位	電気電子創造工学 コース	62 単位	有 ・無	単位	物質工学コース	62 単位	有 ・無	単位	建築学コース	62 単位	有 ・無	単位	GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：			学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																																													
	機械工学科	167 単位	有・ 無	単位																																													
	電気電子創造 工学科	167 単位	有・ 無	単位																																													
	物質工学科	167 単位	有・ 無	単位																																													
	建築学科	167 単位	有・ 無	単位																																													
	機械工学コース	62 単位	有 ・無	単位																																													
	電気電子創造工学 コース	62 単位	有 ・無	単位																																													
	物質工学コース	62 単位	有 ・無	単位																																													
	建築学コース	62 単位	有 ・無	単位																																													
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：																																															
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：																																															

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：</p> <p>【キャンパスマップ】 https://www.oyama-ct.ac.jp/about/outline/campus_map/</p> <p>【アクセス】 https://www.oyama-ct.ac.jp/access/</p> <p>【施設・センター】 https://www.oyama-ct.ac.jp/about/facilities/</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	機械工学科 電気電子創造 工学科 物質工学科 建築学科	234,600円	84,600円	107,200円～ 115,600円	その他内訳：学生会費7,000円 (入会金1,000円含む)、後援 会費40,200円(入会金15,000 円含む)。スポーツ振興センター 共済掛金含む)、寄宿料8,400 円(入寮者のみ対象)。教科 書・教材費約60,000円。
	複合工学専攻	234,600円	84,600円	45,200円～ 71,600円	その他内訳：学生会費3,000円 (任意加入)、後援会費 40,200円(入会金15,000円含 む。本科からの進学者は入会金 納入不要。スポーツ振興センタ ー共済掛金含む)、寄宿料 8,400円(入寮者のみ対象)。 教科書・教材費約20,000円。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 中学校卒業直後の若年層の学生を受入れている特性を踏まえ、修学上の支援に加え、進路 選択や心身の健康等安心安全な生活上の支援を充実させている。また、各種奨学金制度など 学生支援に係る情報の提供体制を充実させ、さらに、学生の就職活動を支援する体制を充実 し、学生一人ひとりの適性と希望にあった指導を行う。本校独自の「小山工業高等専門学校 教育英奨学金」、及び授業料免除や就学支援金制度について、学級担任や掲示を通じて学生に 知らせ、HP掲載や通知により保護者に対して情報提供して、活用を促している。「小山工 業高等専門学校教育研究支援基金」は、短期留学及び語学研修等の支援をしており、「小山 工業高等専門学校教育英奨学金」は、経済的に困難な学生たちの継続的支援を行っている。 保護者への学生の状況報告は、個人面談、保護者会や電話等を通して頻繁に行っており、 状況変化や要望に臨機応変に対応できるように心がけている。また、総合学生支援センター 内に学習支援室を設置し、学習面に関する相談や支援を積極的に行い、教員間で情報共有し 迅速な対応に心がけている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 総合学生支援センター内にキャリア支援室を設置し、低学年から一貫したキャリア教育を 推進している。特に単位化したキャリア教育を推進し、常に改善を図り、低学年から高学年 まで一貫した進路指導(各種講演会実施やキャリアシート作成など)や動機付けを行っている。 地域イノベーションサポートセンターと協力し、インターンシップ、企業説明会などの 活性化を目指し、更なる改善を試み、地元企業への就職につなげている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 総合学生支援センター内に学生相談室を設置し、担任、保健室、インテーカー、カウンセ ラーの連携・協力を得て、問題を抱えた学生の支援を迅速に行っている。また、精神科医 (学校医)と連携し、問題学生の対応方法の相談を行っている。全学年対象に実施した「学 校適応感尺度」調査及び「いじめとハラスメント」調査、「保護者アンケート」についての 情報共有を行うなど定期的に支援活動を展開している。学生相談室等関係部門及び学級担任 と連携して、アンケート調査や情報収集を行い、いじめ防止の啓発活動を継続的に行ってい る。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.oyama-ct.ac.jp/information/publication_of_educational_information/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。